SUMITOMO

世界中で活躍する住友の林業機械。

KESLA Stroke Harvester
SH75X-6A 20SH mkⅡ

KESLA Stroke Harvester
SH135X-7 25SH mkⅡ

SHINYU BACK NUMBER

森友 vol.09
オポーツクバイオエナジー株式会社 / 北海道 SH135X-6 グラップル
雄勝広域森林組合 / 秋田県 SH135X-6 Woody
田中林業株式会社 / 東京都 SH75X-6A KESLA20SH
株式会社守岡林産 / 広島県 SH135X-6 KETO
株式会社高知官材 / 高知県 SH135X-6 KESLA25SH

森友 vol.08
苫小牧バイオマス発電株式会社 北海道 SH250-6MH
株式会社レンタルのニッケン 東京都 SH75X-6A
株式会社 ヨシカワ 石川県 SH75X-6A
八頭中央森林組合 鳥取県 SH75X-6A
丸和林業グループ
山陰丸和林業株式会社 京都府 SH135X-6

森友 vol.07
齊藤重興業 北海道 SH135X-6
気仙地方森林組合 岩手県 SH120-5
小田原緑化開発 群馬県 SH135X-6
白川町森林組合 岐阜県 SH135X-3B
丹波市森林組合 兵庫県 SH75X-3B
山陰興事 岡山県 SH125X-3
宮崎森林発電所 宮崎県 SH120-5

森友 vol.06
五島森林組合 長崎県 SH135X-3B
四万十町森林組合 高知県 SH75X-3B
飛騨高山森林組合 岐阜県 SH120-5

森友 vol.05
グリーン・シャイン 鳥取県 SH75X-3B
秋田グリーンサービス 秋田県 SH75X-3B
つがる森林組合 青森県 SH135X-3B

森友 vol.04
山崎木材 広島県 SH135-3B
奥山町森林組合 福井県 SH135X-3B
群馬県森林組合連合 / 群馬県 SH20LC-5SM
北海道ニッタ 北海道 SH135X-3B

森友 vol.03
上野物産 鹿児島県 SH75X-3B
長浜市伊香森林組合 滋賀県 SH135X-3
神子沢林業 山梨県 SH120-3
木村園秋田林業 徳島県 SH120-5
竹田木材 石川県 SH135X-3B
よつばフォレスト / 浅野産業 北海道 SH135X-3B

森友 vol.02
清測林業 高知県 SH75X-3
松阪地区木材協同組合 三重県 SH135-3B
秩父広域森林組合 埼玉県 SH75X-3B
西垣林業 奈良県 SH200LC-5SM
日和田林 / 岐阜県 SH135X-3
三井物産フォレスト 北海道 SH120-3

森友 vol.01
萬造寺林業 鹿児島県 SH135X-3
奥山村森林組合 和歌山県 SH75X-3B
三次地方森林組合 広島県 SH75X-3
二和木材 岩手県 SH120-3

住友建機株式会社
〒141-6025 東京都品川区大崎2-1-1(ThinkPark Tower)☎ 03-6737-2600
ホームページアドレス http://www.sumitomokenki.co.jp

1800©00T

SUMITOMO

森友

SHINYU
vol.10

CONTENTS

仲山林業株式会社
岩手県
SH120-7 PONSSE H6

アブクマエコロジー有限会社
福島県
SH135X-7 KESLA25SH mkⅡ

企業組合 山仕事創造舎
長野県
SH135X-7 IWAFUJI グラップル

静岡市森林組合
静岡県
SH135X-7 KESLA25SH mkⅡ

株式会社山崎木材市場
兵庫県
SH120-7 選木仕様

福岡都市開発株式会社
福岡県
SH135X-6 KETO150

株式会社トライ・ウッド
大分県
SH135X-6 NANSEI NPH-48

LINE UP

長野県　本郷山から松本平を望む

林業現場レポート
岩手県からの今をお届けします。

小松 正男 代表取締役

仲山林業株式会社

所在地：岩手県遠野市小友町４６地割３５番地
電話：0198−68−2135
設立：平成２７年３月

人を守り、社を守り、森を守る。

SH120-7 PONSSE H6

遠野市は、岩手県南東の内陸部に位置し、周囲を山に囲まれた遠野盆地を中心に市街地が広がっている。盆地特有の気候は、冬季の放射冷却が起きる時期になると−20°近くまで下がることもあり、豪雪地帯対策措置法において豪雪地帯に指定されている。その厳しく長い冬が、遠野の名前を全国的に有名にした柳田國男の「遠野物語」に代表される遠野民話を生んだという。

仲山林業株式会社は、遠野市の市街地から西南に向かった山間の町に所在している。もともとは200頭余りの乳肉複合経営であったが、平成2年頃から将来の素材生産を視野にいれて人工林の植林事業に着手した。平成6年10月には本格的に取り組み始め、林業を専業とした。平成19年に素材生産の開始と同時に高性能林業機械を導入し、以後順調に成長を続け、昨年度の素材生産量27,000㎥にまで発展してきている。その順風満帆な盛業を築き上げ牽引してきた同社の小松正男代表取締役にお話を伺うことができた。

「弊社の現在の社員は14名。年齢構成は30代から70代まで様々です。作業チームとして12名の作業員を2班に分けて施業しています。平成19年に素材生産の開始当初は、林業のノウハウがなく、誰にも相談することなく独学で、すべて手探りで工夫しながら技術を身につけていきました。最初から高性能林業機械を導入したのも、自分たちの未熟さを補うものが必要だったからです。

以来現在所有している林業機械は、KESLAのハーベスタなど14台になります。あとフォワーダも4台稼働しています。作業効率を考えると高性能林業機械の導入は不可避であり、直近ではSH120-7+PONSSE H6を導入しました。

単純に住友の機械が好きで、今では所有する機械はすべて住友の機械を使わせていただいています。業務内容の内訳として、植林や育林にも力を入れていますが、立木を買い入れ皆伐して、製材所や合板工場向けの造材することを基本的な業態としています。テリトリーは遠野市近在の山になります。また、材の調達は民有林が50%、国有林、県有林がそれぞれ25%程度の比率になっています。」

素材生産部門の責任者であり次代の仲山林業を担われるであろう小松正博専務にもお話を伺った。

「会社の将来像や抱負を持つことは大切かもしれません。現在弊社の社業は順調ですが、林業全体を考えると不確定要素が多く、時代の変化にその都度的確に対応することが必要とされる時代になっていると思っています。ここ数年は釜石自動車道や東日本大震災の復興特需があって業績はあがりましたが、今後単純に会社の規模を大きくしたいと夢見るより、高性能機械を導入して有効に活用することや仕事の仕方を工夫することによって効率を上げることを考えています。その一環として平成28年に業務用の簡易無線局の免許を取得しました。それにより作業中、職員一人一人が無線でコミュニケーションを図ることによって仕事の能率も上がり、作業の安全性を高める効果も認められています。

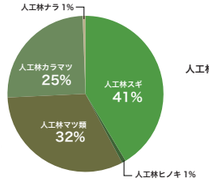
社長はいつも仕事において安全が第一だと社員に伝えています。弊社の車輌を見ていただけば分かりますが、傷や凹みがありません。林業は危険な作業も伴うので、機械を傷つけてしまうことはありますが、できるだけ早く修理します。そのままにしておくと、作業員が傷をつけることに鈍感になり、その気持ちのゆるみが、より大きな事故を起こす引き金になってしまうと考えるからです。また、中古の機械を購入せず、いつも新車を購入するのも社員の安全を考えてのことです。この社長の教えはこれからも守っていこうと思っています。」

●レポート　盛岡支店　長沼　亮

社屋空撮

遠野市の名物
駅前の河童のモニュメント

岩手の樹種別計画対象森林面積割合



人工林総面積：495,171 ha

スギ	202,871 ha
ヒノキ	3,996 ha
マツ類	157,038 ha
カラマツ	123,317 ha
トドマツ	188 ha
エゾマツ	4 ha
クヌギ	78 ha
ナラ	2,559 ha

林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得る事を目的として平成 24 年度に実施した「森林資源現況調査」の主な調査結果をとりまとめたものである（平成２４年３月３１日現在の状況）
引用元：林野庁 HP　http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/h24/4.htm

SH120-5 松本 SE フエラバンチャザウルス

専務 小松 正博さん

SH120-7 PONSSE H6　**SH120-5** イワフジ グラップル　**SH120-3** KESLA 25RHS

後列左から 小笠原 清彦さん、新池 正行さん、菊池 盛五さん、菅原 健さん、小松 幸次郎さん
前列左から 菊池 英勝さん、専務、社長、松田 賢一さん、佐々木 春喜さん

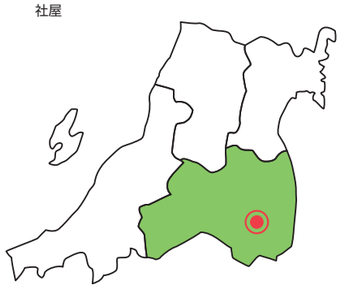
林業現場レポート
福島県からの今をお届けします。

塩田 晃 代表取締役社長

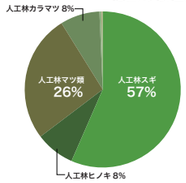
アブクマエコロジー有限会社

住所：福島県石川郡玉川村大字岩法寺字下竹ノ内 36-6
電話：0247-57-4111
設立：平成４年

社屋



福島の樹種別計画対象森林面積割合



人工林総面積：342,043 ha

スギ	184,304 ha
ヒノキ	26,505 ha
マツ類	86,224 ha
カラマツ	26,678 ha
トドマツ	29 ha
エゾマツ	2 ha
クヌギ	1,200 ha
ナラ	974 ha

林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得る事を目的として平成 24 年度に実施した「森林資源現況調査」の主な調査結果をとりまとめたものである（平成２４年３月３１日現在の状況）
引用元：林野庁 HP http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/h24/4.htm

後列左から 酒井 弘友さん、須藤 文彦さん、鈴木 浩幸さん、河合 広幸さん、小山 大輔さん、小川 勝さん
前列左から 増子 大介さん、山田 心一さん、安田 真悟さん、社長、東屋 明子さん

平成4年　アブクマエコロジー有限会社は、福島県の中央を南北に結ぶ、中通りとよばれる地域、県内唯一の福島空港の所在する玉川村に林業とは無関係なビルメンテナンスの会社として創業された。平成30年現在も、同社は、先述した福島空港のビル内清掃や旅客機の内部清掃などのメンテナンス業務に携わり社業を発展させている。

近隣地域は古くから阿武隈山系のコナラの木をシイタケ原木として全国に出荷していた土地柄であったものの、同社の塩田晃社長は、全く林業に興味がなかったという。同社が、異業種である林業に参入したのは平成17年、大手ストーブ会社からストーブ用の薪を製作依頼されたことがきっかけであった。林業に関心はないものの断れない依頼をこなすため、チェーンソー1台を購入して同社の林業はスタートした。

もちろん当初は全くの素人仕事で、見よう見真似で薪をチェーンソー1本の手作業で作っていたという。小遣い稼ぎのような手作業の薪作りが数年で年間10万束の生産量になり、立派に事業として成立した裏には、社長をはじめとするフォレスト事業部の社員たちの並々ならぬ努力があったことは、想像に難くない。

塩田社長は「林業の面白さを感じました。」　全くの素人だった自分が山の仕事を体験し、多くの人達から教えていただき、また技術を自分自身が身を持って経験したことで、林業の重要性・面白さ・奥深さ、等の見識を持てたと想います。異業種出身の社長ならではの感覚が、林業で生かされることになる。

復興・再生　福島の未来を担う企業を目指して

SH135X-6 グラップルソー

SH135X-7 KESLA25SH mkⅡ

「社員の安全と生活の安定」これを会社の基本原則に据え、高性能林業機械の導入や天気に左右される『日給月給』などをやめ完全な月給制にし、社会保険などの福利厚生も充実させて、社内環境の充実を図ることに腐心した。その結果、社員も増え、事業も発展しすべてが順調に進んできた時に、あの日が訪れた。

平成23年3月11日、東日本大震災の日。海岸部のような壊滅的な被害はなかったものの、福島第一原子力発電所の事故による放射能の影響は計り知れないものがあった。

塩田社長は「目先が真っ暗になった。ようやく順調に発展しはじめたフォレスト事業部を解散しようかと2年くらい悩み続けました。」と当時を思い起こすように語られた。「7年あまり経過した現在も、福島県下の林業は、まだその影響から完全に脱却したとは言い難い。依然として風評被害等の深刻な問題が残っており、弊社の薪事業も新潟から放射能の影響がない木を買ってきて薪に加工し事業を継続している状況です。

原子力発電所の事故後、一時途絶えた素材生産も森林再生事業の実施と共に県有林や民有林の森林整備事業が盛んに行われるようになっています。

弊社では以前よりSH75X-3+KESLA 20SHを使用していたが、人力で造材していた時から比べれば遥かに生産性は上がり、それまでの生産量 3,000㎡から 7,000㎡へと飛躍した。森林再生事業の受注が増加する中で、新しい機械の導入を検討した時も迷わず SH135X-7+KESLA25SHmkⅡを導入する事にしました。今後更に生産量・効率共に向上させていく必要があると考えています。その為にも、住友建機における林業機の開発にはより一層期待したい。」

「林業は、3K 仕事と呼ばれ、収入も低く、その担い手の高齢化や後継者の不足がいわれています。ただ、日本という国を想う時、誰かがこの仕事をしなければならないと思っています。殉教者として犠牲になるのではなく、林業の従事者が安全に、安心した生活を送れるような環境整備をすること、そして福島の林業が今後10年、20年、更に次世代へと繋げられる基盤作りに努めていきたいと思っています。」

●レポート　郡山支店　藁谷 義浩

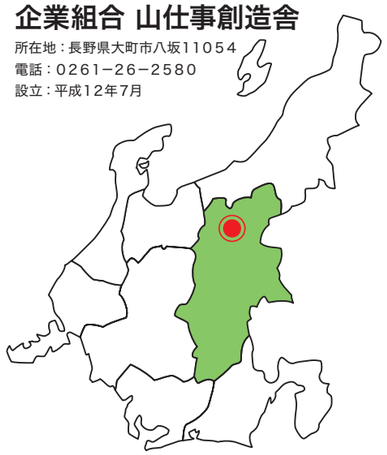
オペレーター 安田 真悟さん

林業現場レポート
長野県からの今をお届けします。

香山 由人 代表理事

企業組合 山仕事創造舎

所在地：長野県大町市八坂11054
電話：0261−26−2580
設立：平成12年7月



SH135X-3B KESLA25SH

ウィンチによる木寄せ

SH135-7X IWAFUJI グラップル

森林の新しい　価値を創造する

大町市は長野県北西部にあり、西に険峻な北アルプスを望み、黒部立山アルペンルートの長野県側の入口として、また黒部ダム建設の基地として名高い町である。その町で江戸時代から続く荒山林業で、働きながら山仕事を学んでいた都会出身の3人が、平成12年に独立して山仕事創造舎を創業した。その後、4人目のメンバーが加わり、組合員が平等に責任を持つ組織にと企業組合を設立し平成14年に法人登記した。現在出資した組合員19名、未加入者を含めると28名の組織になっている。

山仕事創造舎の香山由人代表理事にお話を伺った。

「企業組合とは個人の林業技術者の出資による共同経営法人です。組合員の過半数が実際に事業活動に従事していることが必要で、出資金額に関わらず、一人一票の議決権を持つなど人的つながりを重視した性格を強く持っています。一般の会社のような一体型の事業経営をする場合や、個人事業の集合体として分散型の経営をする場合など、フレキシブルに様々な形態での事業展開が可能です。実際の事業運営では出資金額などによる上下関係は無く、すべて話し合いによって共同で仕事を進めています。組合員全員が営業力を持ち、自分の住む地域で山仕事を見つけだして作業することが基本です。

現場も従業員が車で一時間程度を通勤範囲としていて特に決まったテリトリーはありません。作業システムとして、現場を設計監理できる人間が10名ほどいます。それぞれがその現場に人と機械の手配をして作業する形態をとっています。機械類もチェーンソーなどの手道具類は個人所有として、個人で持てない高性能林業機械などは組合で購入し、組合管理で使用しています。

組合の事業として、育林、素材生産、薪炭製造、支障木伐採、森林・林業コンサルティング、森林ボランティアの育成、森林レクリエーションなど事業があげられます。

素材生産量は昨年度12,000㎥でした。今年度は15,000〜16,000㎥の予定です。目標は立てていませんが、人数をあまり増やさないで、丁寧で綿密な森林経営計画を立て、管理面積を増やすことが重要だと考えています。将来どれだけのエリアまでカバーできるかは機械とのバランスが関係してくると思っています。以前は間伐作業が主体で広葉樹も多く、高性能林業機械を購入しても年間フルに使う自信がありませんでした。しかし機械化すると生産性が上がり計画どおりの償却ができることがわかりました。そして、ハーベスタを本格的に必要としたのが、アカマツの松枯れの問題でした。

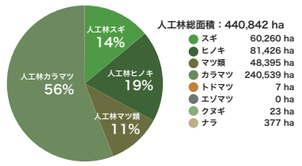
SH135- 3B+KESLA25SHは、アカマツの木の曲がり、枝の太さを考慮すると最適の機械です。初めてKESLAのストローク式を見た時、これしかないと思いました。ストロークの良さは基本的なパワーの強さで枝を払うことだけではなく、材を持ち上げながら作業することがポイントです。斜面の木をつかんで集材しながら製材ができる。スピードが遅いと感じるが、この遅さが安全と品質の向上につながっているといえます。

日本の森林の品質はまだまだ低い部分があります。正しい手入れ、適切な間伐ができていないため、生産性の高い森林になっていない。木の配置も間違っていて組立し直さなければならない山もある。正しく設計されていない山は、設計の悪い工場で良い製品を効率よく生産できないのと同じです。生産林として森の価値を上げることが大切だと考えています。」

宮田 康平さん、　高橋 康夫さん

●レポート
パークス甲信越(株)北信支店　井祐 博美
長野支店　西畑 佳則

長野の樹種別計画対象森林面積割合



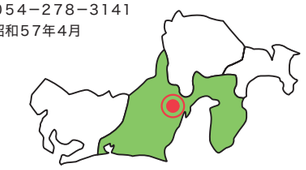
林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得る事を目的として平成24年度に実施した「森林資源現況調査」のまとめ調査結果をとりまとめたものである（平成24年3月）（四捨五入の関係）
引用元：林野庁HP http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/h24/4.htm

林業現場レポート
静岡県からの今をお届けします。

古澤 修一 代表理事組合長

静岡市森林組合

住所：静岡市葵区千代５３８番地の11
電話：０５４−２７８−３１４１
設立：昭和５７年４月



静岡市森林組合が所在する静岡市は、静岡県の県庁所在地であり、古くから静岡県の文化、経済の中心地として発展してきた。平成15年の旧清水市との合併により政令指定都市となり、その後旧蒲原町、旧由比町との合併に伴い141,185haと当時全国で一番広い面積の市となった。また全域面積の76%にあたる107,337haが森林であり、ほとんどが、安倍川、藁科川、長尾川等の流域に分布し、比較的急傾斜地の多い地域となっている。森林の96%は民有林であり、その44%が人工林。またその樹種はヒノキ林67%スギ林26%を占める林分構成となっている。

今回森林組合の吉澤修一代表理事組合長にお時間をいただき、まず組合の成り立ちや事業内容についてお話しいただいた。

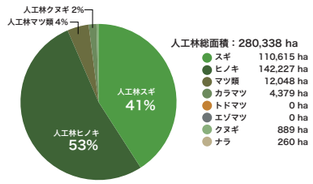
「静岡市森林組合は昭和57年に旧静岡市森林組合、旧安倍森林組合、藁科森林組合の3組合が、管轄の広域化が有意義性を考慮し合併、設立されました。現在の静岡市は葵区、駿河区、清水区の3区からなり、静岡市森林組合、清水森林組合、井川森林組合の3組合が市域を分割し管理しています。

静岡市森林組合の管轄する地域は、

オクシズの樹

看板

静岡の樹種別計画対象森林面積割合



林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得る事を目的として平成24年度に実施した「森林資源現況調査」の主な調査結果をとりまとめたものである（平成２４年３月３１日現在の状況）
引用元：林野庁 HP http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/h24/4.htm

静岡市内の清水区と葵区の旧安倍郡井川村を除いた地域になります。組合内民有林面積は43,000haで市全体の約40%の広大な森林面積を有しています。

現在の組合員数は1,250名余り、職員の内訳は、事務職11名、技術職12名です。所有機械はハーベスタ1台、グラップル5台、フォワーダ2台、ミニ1台の計9台です。組合の事業としては、皆伐、間伐による素材生産を行う林産事業、植林や下刈、間伐、枝打ちなどの保育を行う森林整備事業、山林所有者から依頼をうけて作業道を開設する路網事業、不在地主や相続によって曖昧になってしまった境界の確定に努める地籍調査事業、などが上げられます。

組合設立当初は、素材生産の林産事業が主体でしたが、近年では自然災害による土砂流出の防備や水源涵養といった森林の公益的機能を高める事業など多岐にわたっています。」

今年弊社のＳＨ１３５X-7+KESLA 25SH mkⅡを導入していただいた経緯などについてお聞きした。

「平成23年頃から利用間伐を始めましたが、作業の安全性や効率化を考えていた時にビジネス林業の講習会でコンサルタントから高性能林業機械の導入を勧められたのがきっかけです。平成27年に住友建機のハーベスタをレンタルしたのが最初です。ストローク式は遅く感じたので、その後他社さんの機械もレンタルして色々試してみましたが、静岡は樹種でいうとヒノキが多いので、ストロークハーベスタは安全、確実にその枝払い作業ができるので魅力的でした。

現在は間伐が組合の作業としてかなりの量を占めています。特に谷側から材を上げながら造材できる、いわゆる上げ造材でストロークハーベスタは優れていると思います。また今後は皆伐も想定していますので測尺が正確で払い能力も高く、皆伐も間伐もどちらにも対応できる機械の性能の高さとメンテナンスの対応なども考慮して選定しました。」

また組合の今後の在り方についてお話を伺いました。

「組合の職員には、今後の林業の動向に対応できるよう知識や資格を取るように勧めています。昨年だけで6人が森林プランナーの資格を取得しました。組合員の方々や地域の人達を大切に思い愛され信頼される組合にならなければと思っています。また、一人一人の職員がプロの技術者として、自分の技術を持ってどこへでも出かけていける技能集団、一人一人がプライドと能力を持った人材になって欲しいと思っています。」

●レポート静岡支店　小室 貴弘

地域に愛され、信頼される組合をめざして

SH135X-7 KESLA25SH mkⅡ

後列左から 土屋 晴義さん、大棟 一さん、寺田 衛さん
前列左から 杉山 礼二さん、白鳥 吉章さん、伊藤 憲二郎さん、神谷 誠司さん、高林 利延さん、渡辺 鏡二さん

林業現場レポート
兵庫県からの今をお届けします。

上川 篤 代表取締役

株式会社山崎木材市場

本社所在地：兵庫県宍粟市山崎町須賀沢809−1
電話：0790−62−1088
設立：昭和37年

宍粟市は兵庫県中西部に位置し、2005年平成の大合併で旧宍粟郡4町が合併してできた市である。中でも同社の所在する山崎町は古来より山崎藩の城下町として栄え、山陽と山陰の結節点であり揖保川水運の中心として発展してきた。現在も姫路市と鳥取市を結ぶ国道29号線と中国自動車道の交点であり交通の要衝となっている。

山崎町周辺の豊な森林資源とアクセスの良さを活かし発展してきた地元の有力な林業7社が中心となって昭和37年に株式会社山崎木材市場は設立された。

昭和48年の入社以来、一筋にその発展を支え続け、また4年前の就任以後、関西屈指の大手原木市場である同社を牽引してこられた上川篤代表取締役にインタビューする機会をいただいた。

「弊社は、良質の国産材を全国にお届けする目的で創業以来50余年営業を続けてきました。社の概要は、同族経営ではなく現在30数名の株主がおられ、材の出荷主が100社程おられます。年間取扱量は約10万立方メートル。その大半はスギですが、樹種としてヒノキ、ケヤキ、マツ、モミなど、あと量としては少ないですが広葉樹も扱っています。

社員は社全体で18名。2部門に分かれ、素材部14名、製品部4名になっています。素材部14名のうち11名がグラップルなどの林業機械の操作に携わっています。機械は14〜15年前、住友建機製ではない他社の中古を3台購入したのが最初です。それまではフォークリフトだけで作業していました。限られた敷地に材を高く積み上げたり、積み上げた材越しに奥の材をつかんだり、フォークリフトと比較して作業効率はかなり上がりました。

平成20年に住友建機さんから初めて新車を導入しました。それまでは他社の機械でそれなりに満足していましたが、住友のハイキャビンタイプを導入以後は荷物の積込み時の視界が全然違うので、安全性や作業効率を考え、ずっと住友のハイキャビンタイプを購入し現在は8台所有しています。」

「私が入社した昭和48年頃活況を呈していたこの業界も、20年前くらいから国産材と輸入材の競争が激しくなってからは、厳しい環境が続いています。建築工法の変化も大きな要因です。昔は無節の柱材が当然でしたが、最近では柱は壁の中に組み込まれ、見た目の美しさは必要条件から外れ、強度と単価だけが要求されています。

後列左から 山本 篤志さん、山本 巌さん、高井 良三さん、木戸口 信也さん、光岡 信一さん、上川 隼人さん
前列左から 小林 賢治さん、山本 廣志さん、年綱 満さん、戸田 宣行さん、山本 裕治さん

素材部長 山本 廣志さん

そのため作業効率をより高めるため、4年前に段差のあった土場をフラットなものに改良し丸太選木機も最新型のものに更新しました。今後も良質の国産材を安定して供給するために努力を続けたいと考えています。」

次に現場の声をお聞きしたく素材部の山本廣志部長にインタビューした。

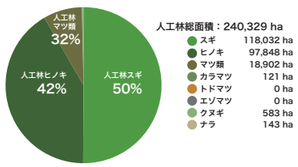
「ベースマシンに関しては故障もほとんど無いし、これ以上改良や発展する余地があるのかと思っています。エンドアタッチメントに関して操作性は問題ないですが弊社の機械の作業時間が年間1,500〜1,800時間／年と長いためか故障や不具合がやはり発生します。その時により早く対応してもらえたら助かります。また、ここ何年か導入し続けてているハイキャビンタイプは視界が良く、本当に荷の積み下ろしが安全で楽になりました。」

●レポート神戸営業所　山田 修平

社屋空撮

丸太選木機

兵庫県の樹種別計画対象森林面積割合



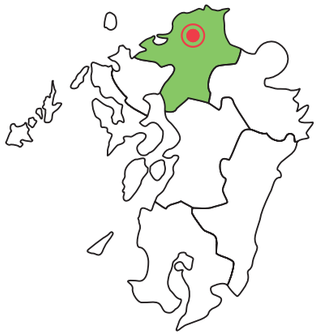
林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得る事を目的として平成24年度に実施した『森林資源現況調査』の主な調査結果をとりまとめたものである（平成24年3月31日現在の状況）
引用元：林野庁HP http://www.rinyamaff.go.jp/j/keikaku/genkyou/h24/4.htm

林業現場レポート
福岡県からの今をお届けします。

北方 紀史 代表取締役社長

福岡都市開発株式会社

住所：福岡県糟屋郡須恵町大字須恵346−104
電話：092−936−3910
創業　平成17年11月



福岡都市開発株式会社は、平成17年に産業廃棄物の収集・運搬・処分や建築物解体工事、土木建築工事、伐採工事などを営業目的として設立された。現在、福岡県糟屋郡須恵町にある福岡本社のほか、熊本と大分に支店を設け九州一円で営業活動を行われている。

同社の北方紀史代表取締役にお話を伺うことができた。

「設立当時は、建築物の解体とそれに伴う産業廃棄物の関係の事業がメインでしたが、5年前から、土木・建設工事にかかわる樹木の伐採が業務の主軸になっています。比率でいうと80〜90%を伐採工事が占めています。砂防工事やダム工事、宅地造成、太陽光発電用地の開発造成などでは伐採木が大量に発生します。弊社では伐採工事から収集運搬・処分・リサイクルまで一貫して承っています。また、移動式の破砕機を現場に持ち込み、その場で破砕処理を行うことで伐採木の再利用（マルチング材や法面緑化用の吹付け基材）や弊社独自の買取システムを利用してローコストを実現可能にしています。」

SH120-5 フェラバンチャーロボ　　SH135X-6 KETO150

次に社員の人数や使われている機械についてお聞きした。

「今11名の社員がいます。その内訳は営業が4名、現場6名、事務1名となっています。現場6名の社員の平均年齢は32〜33歳、まだまだ若く、経験豊富とはいえませんが、彼らを信頼して、現場内での施工に関することは自分で考え判断するよう指示しています。現場をまかせて自分で考えてもらう方が、仕事が早く身に付くように感じます。弊社所有の機械は14台あり、そのうち10台が林業用です。

ハーベスタ、ザウルス、木材用グラップル、フェラバンチャー、フォワーダなどです。弊社には住友ファンが多くいます。乗りやすいし、実際使ってみてよかったと現場から声があがってきています。」

これまで苦労されたことや今後の展望は？の問いに「苦労とかを感じたことはありませんが、弊社はゼネコンの下請けとして現場に入ることが多かったので、軸足は林業ではなく建設業にあると感じています。弊社の下請けしていただいている協力業者の林業家の方たちは、工程管理や繁雑な書類業務などが苦手で、嫌がられています。

始業時の朝礼や作業確認、機械の始業点検などもわずらわしいと思っているようです。林業には、良くも悪くもざっくりしたところがありますが、建設業界の細かな作業管理を取り入れることが作業の安全性や生産効率を上げ、売上の増加となり、その対価として自分たちの収入に反映されることを理解していただきたいですね。ただ、林業家の方たちに驚くのは山に入った時です。木の扱い方や作業道の作り方など非常に細やかな仕事をされるので、まだまだ教えていただくことがたくさんあると頭が下がります。

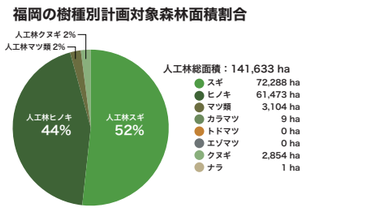
将来的には、植林も視野にいれた素材生産業の分野を拡大させたいと考えています。樹木を伐採して人工物を作る一端を担うことは、企業として社会貢献していることですが、植林し、木を育て、山を守るといった自然を大切にする環境への貢献ができ、社員のやりがいのある職場を造りたいと思います。林業界も建設業界も人材不足です。作業の危険性や仕事の内容に比して賃金ベースはまだまだ低いと感じています。ひとつひとつ問題を解決することで若い人たちが就業できる環境を作っていきたいと思います。」

●レポート　福岡支店　渡邊 伸二

循環、そして再生へ

SH135X-6 KETO150

左から 中村 将大さん、末永 藤雄さん、高見 明さん、工藤 寛司さん、浦丸 満弘さん、山野 幸太さん



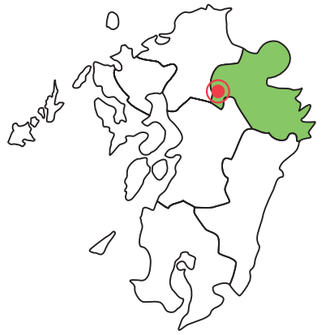
林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得る事を目的として平成24年度に実施した「森林資源現況調査」の主な調査結果をとりまとめたものである（平成24年3月31日現在の状況）
引用元：林野庁 HP　http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/h24/4.htm

林業現場レポート
大分県からの今をお届けします。

古川 和博　参事

株式会社トライ・ウッド

本社所在地：大分県日田市上津江町川原2810−1
電話　0973−55−2280
設立　平成2年11月

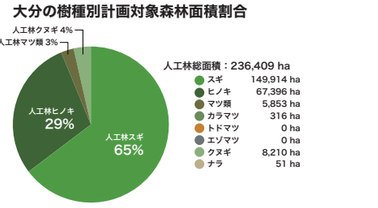


SH135X-6　NANSEI NPH-48

後世に残そう かけがえの ない森林(みどり)を

SH135X-6　NANSEI NPH-48

社屋　空撮



林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得る事を目的として平成24年度に実施した「森林資源現況調査」の主な調査結果をとりまとめたものである。(平成24年3月31日現在)
引用元：林野庁 HP　http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/h24/4.htm

株式会社トライ・ウッドの所在地である大分県日田市上津江町は、日本五大美林のひとつといわれる古くからの林業地である。長い林業の歴史を刻むこの町でも昨今の日本の林業界が抱える問題、安い外国製品の影響による業績の悪化、３K仕事を嫌う若者の他業種への人材流出など様々な問題に直面していた。

上津江町の面積8,853ｈａのうち森林面積は8,081ｈａ（91.3%）森林面積のうち7,475ｈａ（92.5%）が保安林面積であり、まさに山と森林に囲まれたこの町で、平成２年、先人たちが守り育ててきた大切な森林資源を未来に繋げるため、林業後継者の育成と津江地域の林業発展を目的とし、森林管理、素材生産、木材加工、販売と一貫した流通経路を持つ総合林業会社、株式会社トライ・ウッドは設立された。

今回、ご多忙な折り、古川参事からお話を伺うことができた。

「弊社は、正社員64名、作業員15名。昨年度の年間素材生産量　約14,500㎥山に囲まれた小さな町の小さな会社です。ですから外国から輸入される大量生産された製品と値段で競っても得るものはありません。

そのかわり、複雑な流通経路とは異なる産地直送直接販売を主体としているので、大切に育てた木を大切に扱い加工することで、製品の差別化を計ることを考えました。

お客様に満足していただくために、例えば弊社では木材の乾燥を一般的な機械での強制乾燥ではなく、木を井桁状に何段も組み上げた、「輪掛け乾燥」という方法をとっています。

太陽と風による時間をかけた無理のない自然な乾燥方法だと、木が本来持っている調湿効果や防虫効果、また芳しい木の香りなどを損ねることなく、お客様に届けることができるのです。

私たちは、手間を惜しまずに作り上げた素晴らしい製品を「津江杉」というブランドとして販売し、多方面のお客様から高い評価をいただいています。

また、同時に弊社では山林所有者の方への誠実な対応が求められています。特に個人の山林所有者の方に、間伐の重要性や路網整備の必要性を理解していただくのは困難な案件でした。

多くの問題を抱える山林経営に対し、どうすれば山を守り、木を育て、山林所有者の方に利益を出せるかを提案し実現していくことが重要です。

お互いの深い信頼関係を構築する確かな方法だと考えています。」

高性能林業機械に関してもお話いただきました。「現在の保有台数は、ハーベスタ6台、スイングヤーダ1台、グラップル1台、フォワーダ4台、バックホー3台です。

平成５年 KETO 500(0.7)ハーベスタが、最初の導入です。平成３年に台風による甚大な被害を受けました。その片付けは、人力でどうにか出来る範囲ではなく、また3K仕事と呼ばれる過酷な作業の負担を軽減して若者の定着を計るためにも必要なアイテムでした。

維持管理の兼ね合いで平成７年頃より自社で修理を始め、平成１０年頃より機械販売も始めました。とにかく自分たちで使って良いものだけをお客様にお勧めすることにしています。

今回導入した住友建機の SH135X-6 と NANSEI-NPH-48 の組合せも試験的に操作をしてみてベストマッチだと考えたからです。」

最後に将来の展望をお聞きした。

「森林整備を計画通りに進めていくには、人材の絶対数が不足している。人材が増え、技術の継承ができれば、新たな機械の導入により現在の森林管理委託面積をさらに増やしていけると思っています。」

●レポート　大分支店　野中 修

左から 井上 隆也さん、増永 智一さん、福沢 祐子さん

左から 増永 智一さん、内藤 剛さん、渡邊 廉さん、井上 隆也さん